



平成 21 年 9 月 25 日

## 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について 審議経過報告に関する意見

近年、若者の社会人としての自立の状況については、さまざまな課題が指摘されており、キャリア教育・職業教育の重要性については、本会としても十分認識している。

本報告は、後期中等教育、高等教育段階に焦点をあてて検討された経過報告であるため、感想的な意見になるが、キャリア教育・職業教育に関して幼稚園教育に携わる立場から若干の意見を述べる。

### 記

- 本報告には、今後、将来の自立の基礎として義務教育段階からの勤労観・職業観の育成が不可欠と示され、その際、義務教育及びそれ以降の教育の基礎を培う就学前教育の充実の重要性にも触れられている点を評価したい。
- P 4から始まる「経済・社会の現状と課題」の中に、社会の変化の中で、求められる知識・技能や人材ニーズが高度化していることが示されている。しかし、ニーズの高度化への対応と勤労観・職業観の育成は、関連している面と別の課題の面もあると考える。高度化しているニーズに対してどこまで後期中等教育段階で学習させるのか高等教育段階にゆだねるのかを明確にしないと、高校生は「夢や希望を描きにくい状況」になりやすいと感じた。
- P Cを操るなど、汗して働かなくても生活することが可能な時代であり、それを「人生の勝ち組」と考える風潮が生まれているのではないかと懸念を抱いている。「働く」という

ことは、自分の生を維持し自己実現していく大事な場だと考える。

- キャリア教育・職業教育の体系的な推進に当たって、子供の発達段階を的確にとらえた発達課題を踏まえて、重点の置き方を工夫することの大切さについて記載されており、本会も同様に考えている。
  
- 例えば、幼稚園教育においては、「幼稚園教育要領」の領域「人間関係」の「内容」に、「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりなどする。」と示され、また、その「内容の取り扱い」には、「・・・人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。・・・」と記載されている。共通の目的をもってそれを達成しようとする、人の役に立つことを喜ぶことなどは、社会人として生きるうえで大切な事柄であり、勤労観・職業観の基盤になると考える。こうしたことが、子供の発達段階に応じた課題であり、これらを一人一人の幼児の心に実感をもった体験となるように指導することが、幼稚園教育におけるキャリア教育・職業教育と考えている。
  
- 正しい勤労観を培うためには、幼児期から、人に対する信頼感、人の中で生きていくことを喜びと感じられる力を育てていくことである。
  
- そこで、幼稚園では、例えば、地域の伝統行事への参加や地域の商店街等へ積極的に出かけ、人々が働いている場面や様々な仕事に触れさせる機会を設けて、様々な仕事があることを感じ取らせるようにしている。こうした体験を通して人に対する信頼感が育つとともに社会の中に生きる市民の一員としての意識がはぐくまれると考えている。
  
- また、そうしたかかわりの中で、人の役に立つ喜び、人とのかかわりのなかで自己表現、自己実現していく喜びを体験するとともに、自分の能力や特性などについて漠然と感じ取れるような感性をはぐくむ教育を推進しているところである。